

産業新聞×SDGs×関西



「それぞれの会社
の概要を。」
矢追「大阪故鉄は1946年に創業した。本工場を大阪市住之江区に置き、大阪府大東市に諸福工場を構える。近年は、S・B・T認定の取得や工場のCO₂排出量を算出するなど、脱炭素関連の取り組みに力を入れている。」

田村「田村商店は1991年に大阪市西区で創業した。昨年11月にオフィスビルをリニューアルし、新たにアップサイクル事業を進めている。私自身は大学卒業後からアップサイクルショップに7年間在籍し、その後企業へ戻ってきた。」

「2人ともSDGsにもつながる九条(大阪市西区)の手づくり工場組合」に参

地域で学生・子どもと交流

「加している。」

田村「家業の継続発展に資するため、後継者同士でも学び、成長する機会を創出している。さらには、歴史的な産業集積地『鐵のまち 九条』の地域ブランド化を目指している。現在は9社が集まり、2つの事業をメインに活動している。一つは『カンパニアルマチ』プロジェクトで、廃材を活用して町工場の加工技術が連携したサステナブルな看板を制作している。もう一つは、大阪商業大学との産学連携でフィールドワークを実施している。今年には看板を使ったフィールドワークで、九条の子もたちを巻き込んで、学生たちの力でプロジェクトを進めている。」

矢追「当社は九条に拠点はないが、緑を減少し、営業活動もできない中で新しい取り組みとしてSDGsを始めた。当時はこの業界でSDGsを使う人が少なかった。SNSを使って発信するのを知った。SNSはすぐ直接的な結果につながるわけでもないが、ひる商売目録では当業界には努力を考えると合わないと思う。たいてい、活動内容もだ、スクラップについて発信を続けている。田村「手づくり工場組合をはじめ、九条に30〜40歳の世代が、交友関係の広がりにつながった。」

田村「SDGsを始め、たきつけはこの新オフィスビルをリニューアルする。完成後に展示会を開催し、そのPRも兼ねてSDGsを始めたい。現在日々取り組みをアップデートしている。」

What's SDGs?

SDGsは「Sustainable Development Goals」(持続可能な開発目標)の略称です。2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として15年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な

開発のための2030アジェンダ」に盛り込まれた2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成されており、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。

アップサイクル製品挑戦

「田村商店ではアップサイクル事業『Bond』と『TEPPON』を手掛けている。」

田村「bondは業者向けに廃材マッチングサイト、使用しなくなった大物鋼材や古材をそのまま販売できる。一般の人やアーティストが廃材をほいしてスクラップ屋に行くと売ってほしい場合が多く、そういう方をスクラップディーラーにもぜひ使ってもらいたいと思っている。TEPPONはBtoC向けで、廃材でインテリア家具やアイン雑貨を製作・販売している。スクラップを使って、廃材を使っていることでSDGsにつながる。のとして行政をはじめ、いろいろな業界からたくさんの方に来ていただいている。本業ももちろん大事だ

このアップサイクルを続け、いろいろなことに挑戦し、新しいものを生み出していきたい。」

矢追「スクラップ業の立場から見ると、とてもおもしろい取り組みだと感じている。スクラップを製品として売るといことは、これまで売られなかった業界ではなかった。空の間に使えるスクラップなんかもある。通常の1.5倍何円という売り方から1個何円とって、販売形態が変わることの意味は、とても大きい。業界・会社の認知度アップにもつながるだろう。」

田村「最後に今後の展望を。」

田村「新オフィスになってからいろいろな業界からたくさんの方に来ていただいている。本業ももちろん大事だ

が、少し脱線したこと。新しい世界が見えた。0から1を生み出すことは簡単なことではない。今後は、今までの活動を続けていきたい。一般消費者向けの事業を始めてからこれまでだった予想できなかった出会いもあった。この二つの出会いを大切にしながら、BtoB向け事業にもさらに注力していきたい。」

矢追「その脱線に、やお金をかけ、取引組む。この意味は、本業がしっかりと安定しているというところ。スクラップ業界にとって子どもたちへ私たちのことを知ってもらえる機会は少ない。工場見学会などは行いながら、働く社員もわくわくすることを目指していきたい。」



産業新聞社ではSDGsの実現に向けて、中小企業の取り組みに注目している。鉄スクラップ業の大阪故鉄の矢追大祐社長と土木・建築資材などを販売する田村商店の田村友紀晃専務。2人ともSDGsの重要性に着目し、現在は交流を深めている。関西SDGs特集企画の第1弾として2人の若手経営者に新規事業や人材育成などについて田村商店のオフィスで話を聞いた。

大阪故鉄 × 田村商店 矢追大祐社長 × 田村友紀晃専務

若手経営陣対談

オフィスからイメージ変える

「業界、会社のイメージを変えよう」と、このオフィスを作った。田村「私は生まれてからずっと九条で育ち、昔から町工場が多いが、工場というイメージを、自分たちも感じてしまっていた。こちらも変わっていかないと。矢追「この田村さんのオフィスを見てイメージを変えよう」と、矢追「昔は事務所に田村さんの影響を大きく受けた。特にイメージを変えよう、人が集まる空間づくりに共感し、工場の外壁の一部を壁アートにする予定。アーティストを募集し、来春に完成する予定だ。本社を建て替える計画もあり、こちらでも業界イメージを変えることも視野に入れている。」

田村「もともとこの場所は加工場で、昔は鉄の躯体を残して、カワタスーパーの木材は鉄粉で黒く染めるなど、いろんなイメージを、自分たちも感じてしまっていた。こちらも変わっていかないと。矢追「この田村さんのオフィスを見てイメージを変えよう」と、矢追「昔は事務所に田村さんの影響を大きく受けた。特にイメージを変えよう、人が集まる空間づくりに共感し、工場の外壁の一部を壁アートにする予定。アーティストを募集し、来春に完成する予定だ。本社を建て替える計画もあり、こちらでも業界イメージを変えることも視野に入れている。」

求職者目線で人材採用

「採用にはギャップをなくすことが大切。」

田村「当社ではまず、現場を見てもらう。入社後の上司や同僚との面談の機会も設け、入社前後でギャップをなくし、離職率を低減につなげていく。退職する理由にも多い『思っていた会社と違った』『人間関係がやめる』を減らす努力をしている。採用活動に当たり、求職者にとっての求職者目線が、仕事内容の伝わり方、十分だったか否かを聞いて求職者の目線に立つことが大事だと実感している。」

田村「当社は特定技能実習生も活躍してくれているが、実際のところ現場の採用は難しい。スキルももちろん大事だが、それ以上に素直さや、自分たちの熱量に共感してくれる、今やっている事業をおもしろいと感じてくれる人がほしい。」

田村「現場を見てもらう。入社後の上司や同僚との面談の機会も設け、入社前後でギャップをなくし、離職率を低減につなげていく。退職する理由にも多い『思っていた会社と違った』『人間関係がやめる』を減らす努力をしている。採用活動に当たり、求職者にとっての求職者目線が、仕事内容の伝わり方、十分だったか否かを聞いて求職者の目線に立つことが大事だと実感している。」

貢献できるよう活動を推進してまいります。

企画・制作 / 大阪本社企画営業局 広告

山陽特殊製鋼 | 関包スチール株式会社 | NIKKO KOBELCO | 中塚商事株式会社 | 東洋特殊鋼業株式会社 TOYO SUPERIOR STEEL TUBE WORKS LTD. | 中嶋産業株式会社 | 永井鋼業株式会社 | ウメトク株式会社 | 大同DMソリューション株式会社 Daido Die & Mold Steel Solutions Co., Ltd. | NIKKO | FUJIKOSAN CO., LTD. 富士興産株式会社 | とりあえず やってみよか SHIMABUN | 岸和田製鋼株式会社 | KSK 岸和田ステンレス株式会社 | 株式会社 堀田ハガネ | FURUKATSU ALL AROUND RECYCLER | 株式会社 古勝 順不同